

(様式1)

平成27年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 033	提案機関名 環境農政局水・緑部水産課
要望問題 相模湾におけるシラス漁獲量とカタクチイワシ資源との関係	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 本県の「しらす船びき網漁業」の許可定数や許可内容を検討する上で、シラス資源の状況を把握する必要がある。 また、相模湾では、「しらす船びき網漁業」の操業隻数が近年増加し、漁法の変化とともに沖合域への操業が徐々に拡大していることから、シラス資源の減少と定置網漁業等の漁業への影響を懸念する声がある。水産庁の資源評価によると、全国のしらす漁獲量とカタクチイワシの資源量の間に関連はないとしているが、相模湾における両者の関係を明らかにしていただきたい。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター②畜産技術センター③水産技術センター④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	水産技術センター	担当部所	企画資源部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 本県沿岸海域におけるシラスの漁況予測手法の再検討			
対応の内容等 マイワシの場合、春しらす漁におけるマイワシ仔魚（マシラス）混獲量（標本船3ヶ統の漁獲データから推定）と夏以降の相模湾における主要定置網での当歳魚の漁獲量との間には、高い相関関係があることが明らかとなっています。つまり、現状の相模湾でのしらすへの漁獲圧では、閾値を超えてまでの漁獲量にはなっていないと推定されます。 このことからすると、カタクチイワシでも同じことが言えるのではないかと考えていますが、今後ともイワシ類の資源調査の中でご要望の事項について調査・研究を進めます。また、カタクチシラスの漁獲量の把握にも引き続き努めてまいります。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			